

令和7年度あやせ文化芸術祭 芸術展

出展者略歴・作品解説

【 洋画 】

p1	・	・	・	・	井上	明子
p2	・	・	・	・	内田	周司
p3	・	・	・	・	大石	正巳
p4	・	・	・	・	岡谷	信彦
p5	・	・	・	・	奥田	喜代子
p6	・	・	・	・	加藤	誠治
p7	・	・	・	・	君島	光江
p8	・	・	・	・	小林	和子
p9	・	・	・	・	小林	三夫
p10	・	・	・	・	佐藤	裕美子
p11	・	・	・	・	新倉	秋夫
p12	・	・	・	・	畠山	美喜子
p13	・	・	・	・	松田	高明
p14	・	・	・	・	宮森	勝

【 日本画 】

p15	・	・	・	・	加藤	聖乃
p16	・	・	・	・	釣谷	みよ子

【 書 】

p17	・	・	・	・	上田	芳翠
p18	・	・	・	・	近藤	和子
p19	・	・	・	・	佐藤	琴帥
p20	・	・	・	・	長井	黙庵
p21	・	・	・	・	馬場	虹苑
p22	・	・	・	・	濱岡	見雲
p23	・	・	・	・	比留川	秀水
p24	・	・	・	・	水川	芳竹

【 工芸 】

p25	・	・	・	・	石原	新三
p26	・	・	・	・	橘川	和男
p27	・	・	・	・	近藤	圭

【 彫刻 】

p28	・	・	・	・	辻	忍
-----	---	---	---	---	---	---

『 枇杷と女 』

いのうえ あきこ
井上 明子

【洋画】

略歴

- ・女子美術大学芸術学部卒業
- ・渡辺啓輔氏に師事
- ・厚展 厚展記念賞、会員賞受賞
- ・個展 銀座ギャラリーオカベ
- ・グループ展 日本橋ギャラリー白百合にて 14 回 銀座アートホール 4 回
他ギャラリー等で数回
- ・現在 示現会委員、厚展委員、童夢造形研究会主宰、遊画会講師

< 作品解説 >

足を組んで座る女性の肖像です。

脇のテーブルに枇杷を 4 つほど置き、青を原点とする人物画にしました。

あえて無表情にしつつ、感情に余白を持たせ、過去を思い起こすような面差しを、しなやかで強く表現しました。

『 白馬大橋から 』

うちだ しゅうじ
内田 周司

【洋画】

略歴

- ・2003 年 第 55 回 大調和展に初出品、初入選
- ・2005 年 綾瀬市美術協会会長に就任、以降 7 期
- ・2011 年 綾瀬市美術協会会長を退任
- ・2019 年 個展 9 囲目、河の手ギャラリー
- ・2022 年 示現会展会員推挙
- ・2023 年 示現会会員、綾瀬絵画会会員

< 作品解説 >

白馬大橋からの北アルプスの山々、特に白馬岳 五竜岳を松川の河原越しの眺めは圧巻だ。四季折々の山の表情は心の癒しになる。

雪どけの松川の水音も河原にさえずる鳥達も、アルプスから吹きおろす風も絵心をかきたてゝくれる。

『 白の造形 』

おいしい まさみ
大石 正巳

【洋画】

略歴

- ・渡仏（2000 年～2005 年）パリ・グランショミエール研究所に通う
- ・パリ、NAC 展出品（2001 年～2005 年）
- ・個展 2000 年 銀座月光荘画室 2013 年 銀座月光荘画室
2002 年 日本美術家連盟画廊 2014 年 銀座 K' S ギャラリー
2004 年 日本美術家連盟画廊 2015 年 日本美術家連盟画廊
2006 年 日本美術家連盟画廊 2018 年 小田急百貨店町田店
2009 年 小田急百貨店町田店 2019 年 銀座中和ギャラリー
2011 年 小田急百貨店町田店 2022 年 パリオギャラリー（町田）

< 作品解説 >

風景や人物、静物と具象的な表現から始めた絵画も少しずつ興味が変化してきて、現在では感じたことを自由に表現したいと思っています。

今作は資源ゴミとして廃棄されたダンボール紙を利用して抽象的表現を試みました。

如何でしょう。楽しい制作でした。

材料：ダンボール・白のペンキ・パネル

『 緑薫る 』

おかや のぶひこ
岡谷 信彦

【洋画】

略歴

- ・2015 年 1 月 綾瀬絵画会会員
- ・2015 年 6 月 第 16 回大和展「砂浜」議長賞受賞
- ・2015 年 7 月 綾瀬市美術協会会員
- ・2016 年 1 月 大和美術協会会員
- ・2016 年 4 月 第 69 回示現会展初出品
- ・2018 年 5 月 示現会 会友
- ・2022 年 4 月 示現会 準会員
- ・2023 年 4 月 示現会 佳作賞受賞
- ・2024 年 4 月 示現会 会員

< 作品解説 >

新潟県妙高山を望む優雅な景観いもり池のほとりから雄大な妙高山を眺めることができる。

私にとっては見事な景観であると感じました。

このいもり池を地点とした春の緑あふれる樹木と残雪の妙高山をバックに構成した作である。

特に中央部のグリーンといもり池の水面に映る樹木まさに緑薫る色合いを表現したものであります。

『 デイライト 』

おくだ きよこ
奥田 喜代子

【洋画】

略歴

- ・ 国画会 佐藤裕美子氏に師事
- ・ 2005 年 第 56 回神奈川県勤労者美術展 厚生労働大臣賞受賞 無鑑査
- ・ 2006 年 第 59 回東京都勤労者美術展 奨励賞受賞
- ・ 2007 年 第 59 回東京都勤労者美術展 受賞者展 新宿地下プロムナードギャラリー
ハマ展出品 以降連続入選
- ・ 2013 年 第 69 回ハマ展 ナムラ賞受賞
- ・ 2021 年 第 77 回ハマ展 ターレンスジャパン賞受賞
- ・ 2025 年 第 81 回ハマ展 伊勢山皇大神宮賞受賞
- ・ 2014・22 年 ハマ展 受賞者展 万国橋ギャラリー、画廊楽
- ・ 現在 綾瀬市美術協会会員、市内絵画グループ イーストアーツ会員

< 作品解説 >

一際目立つ横浜のシンボル大観覧車に乗り、空に向かって頂点からの眺望が素晴らしい景色に感動しました。

観覧車の入った風景をテーマに、日中の光、午後の光、黄昏、夜の光と一日の変化、季節による光の強さの違い等、時間の流れを地上から鳥瞰図、又は海からの風景を描いています。

この絵は日中の光の強さが感じられたら幸せです。

『 晩秋千畳敷カール 』

かとう せいじ
加藤 誠治

【洋画】

略歴

- ・2016 年 大和美術協会会員
- ・2017 年 大和市文化祭 秀作
- ・2018 年 自垂会 神奈川支部展 支部奨励賞
- ・2018 年 自垂会 優秀賞 同人推挙
- ・2019 年 示現会初出展 入選
- ・2021 年 示現会会友
- ・2022 年 示現会 佳作
- ・2023 年 示現会 準会員
- ・2025 年 示現会 会員
- ・現在 綾瀬絵画会 会員、示現会 会員、大和美術協会役員

< 作品解説 >

昨年の10月10日、千畳敷カールを訪れた時の風景を絵にした。

紅葉の盛りを過ぎていて、少し残念であったが、その場で水彩でスケッチ、帰ってきてから晩秋の感じを出すことを意識しながら油絵で仕上げた。

岩山のゴツゴツした感じと千畳敷カールの雄大な感じを出すのに苦労した。

『 爽 春 』
きみじま みつえ
君島 光江

【洋画】

略歴

- ・1991 年 三軌会初出品後、連続入選
- ・1995 年 平塚市展出品、議長賞
グループ展 銀座アートギャラリー
- ・1998 年 三軌会会友推挙
- ・1999 年、2008 年～2019 年 グループ展 銀座画廊、タカゲン、他
- ・2004 年 大和市展 美術協会賞受賞、会員推挙、無審査となる
- ・2007 年 個展 銀座ギャラリー美庵
- ・2007 年～2016 年 綾友展出品 みなとみらいギャラリー
- ・2022 年 三軌会退会
- ・2023 年 綾瀬市美術協会会長 退任
- ・現在 三軌神奈川会員、綾瀬市美術協会員

< 作品解説 >

コロナ禍での市役所周辺に咲き誇る菜の花と遙かなる情景に心をうたれ、作品としてまとめました。

地域での文化芸術の質を少しでも高める努力ができればと出品いたしました。

近年、絵を描く人が少なくなり、今後の文化芸術の進展が危惧されます。

老令となった私には・・・！？

『 輝（かがやき） 』

こばやし かずこ
小林 和子

【洋画】

略歴

- ・20代 働きながら油絵を学ぶ
- ・2005年～2010年 滝氏に師事
浜展出展
- ・2011年～2014年 独学 裸婦デッサンを学ぶ
- ・2015年～ 小林三夫氏師事
ima 100号出展 奨励賞受賞
市展 60号出展 神奈川新聞社賞受賞
近代日本美術協会展出展 新人賞受賞
近代日本美術協会 会員

< 作品解説 >

孫娘幼稚園卒園後、海老名市より九州福岡へと引っ越して行く事になり、次女と孫娘への応援歌として描きました。

春うらら桜満開、5月の菖蒲 一本道が続く木道、元気に健康で幸せに福岡ですごせますようお願いを込め描きました。

『 苔むす溪流 』

こばやし みつお
小林 三夫

【洋画】

略歴

- ・東京藝術大学 油絵 エクステンションで学ぶ
- ・欧州研修
- ・フランス・インターナショナル・グランド・コンクール 優秀賞受賞
- ・神奈川二紀展二紀賞 宮永賞、相鉄ギャラリー賞、岩崎ミュージアム賞、秀作賞受賞
- ・国際現代美術家協会展 文部科学大臣賞、大賞、都議会議長賞、ボザール賞、松田賞、優秀賞受賞
- ・県展 奨励賞受賞
- ・ハマ展 知事賞、読売新聞社賞他 5 賞受賞
- ・大和市長賞他 4 賞、無審査
- ・その他、国内外の公募展で多くの賞を受賞
- ・個展、グループ展の開催、長野県立佐久創造館にて絵画展開催、他ジャンルとのコラボレーションの開催
- ・現在 フランス・ソシエテ・ナショナル・デ・ボザール会員、二紀会所属、国際現代美術家協会理事、日本美術家連盟会員、横浜美術協会役員、美術教室及び書道教室主宰、障害者等福祉支援活動及び国際ボランティア活動に力を注ぐ

< 作品解説 >

伊豆、本谷川「浄蓮の滝」周辺は、深い緑と溪流の滝が心を癒します。

本谷川周辺は、火山活動によって形成されており、柱状節理など地球の息吹を感じさせます。苔むす風景は圧巻です。

『 インナーボイス（うちなる声） 』

さとう ゆ み こ
佐藤 裕美子

【洋画】

略歴

- ・大分県立芸術短期大学絵画科卒業
 - ・国画会 故宇治山哲平に彫刻を日展、平原孝明に学ぶ
 - ・現代美術家協会展 新人賞受賞、選抜展出品
 - ・神奈川女流美術家協会展 県知事賞、横浜市長賞受賞
 - ・神奈川県主催神奈川県美術展、座間巡回展 国画会展
 - ・個展・グループ展 多数
 - ・装画 新潮社 宮本輝 作「地の星」「血脈の火」
 - ・作品寄贈 早園小学校 F30「おさなきもの」、グループホーム「花」 F120「そそぎく
るもの」
- 現在 綾瀬市美術協会会員、カトリック美術協会会員、(社)日本美術家連盟会員、
イーストアーツ講師

< 作品解説 >

人は五感で受ける美の世界を、様々な方法で描いています。目に見えるものの世界から人間の内面に注意をむけてみました。

発表する自己表現は、時として見る人にとって過激なものになることもあります。

今回の作品は対象物をできるだけ少なくし、人間と空間にしぼりました。

人間も年齢、性別が特定されないように描くよう努めました。

人物は私であり、あなたです。

空間の声が聴こえると良いのですが・・・。

『 朝陽の中で 』

にいくら あきお
新倉 秋夫

【洋画】

略歴

- ・2000年 第88回日本水彩展（東京都美術館）初出品、以降毎年出品
- ・2006年 第8回厚展 新人賞受賞
- ・2008年 第10回厚展 厚木市長賞受賞
- ・2009年 第22回市展 神奈川新聞社賞受賞
第97回日本水彩展 奨励賞受賞
- ・2010年 第98回日本水彩展 会友奨励賞受賞、会員推挙（2012年）
- ・現在 公益社団法人 日本水彩画会会員、アトリエ an 主宰（厚木、戸塚）、
水遊会（戸塚）講師、三彩会（戸塚）講師、タブロー会（戸塚）講師、
いろどり会（綾瀬）講師、日本水彩画会評議員

< 作品解説 >

朝の光がやわらかく差し込む窓辺に佇む女性（カザフスタン出身）
を、透明水彩で表現しました。

髪や衣服を透かす光、肌に映る陰影、背景のグリーンとの対比が静
かな気品と内面の想いを感じさせます。

人物のまなざしの先に広がる空気感を目指した作品です。

『 秋 うらら 』

はたけやま み き こ
畠山 美喜子

【洋画】

略歴

- ・松田高明氏に師事
- ・平成 27 年 県展 横浜市会議長賞
- ・平成 31 年 県展 TVK テレビ神奈川賞
- ・令和 06 年 県展 横浜市会議長賞
- ・令和 07 年 県展 奨励賞
- ・グループ展
平成 11 年～22 年 鶴見画廊にて 開展
昭和 63 年～現在 綾瀬市役所 7F にて 翔美展
- ・現在 神奈川県美術家協会会員、綾瀬市美術協会会員、市内絵画グループヴィーナス会
会員

< 作品解説 >

この場所は 里山に囲まれた 厚木市の荻野川です。

川の音を聞きながら上流に向かって歩いてみると、水門と民家が点在し、かつての水田耕作のなごりを残し、どこか懐かしさを感じる。

静かでのどかな所に惹かれ、私なりに捉えました。

『 イリュージョン 』

まつだ たかあき
松田 高明

【洋画】

略歴

- ・パリ・エコール・デ・ボザール及びエコール・デッサンにて学ぶ
- ・第一美術展出品 青山熊治大賞受賞
- ・フランス留学 ル・サロン展出品
- ・文部大臣奨励賞受賞
- ・S.N.B.A. 主催ゴルデュイユ城展覧会招待出品（フランス）
- ・日本・中国交流（大連市美術家協会）
- ・日・仏美術展参加（フランス・ヴァンセヌ市）
- ・日本・韓国交流展参加（黎明会国際交流）
- ・日本・モンゴル美術交流展（ウランバートル）
- ・i・m・a パリ展 於：パリュネスコ本部
- ・S.N.B.A. サロン・2019・ジャポニズムデリガシオン参加 於：カルーゼル・ド・ルーブル
- ・個展 藤沢小田急百貨店美術画廊、銀座渋谷画廊「幻化の世界」相鉄ギャラリー企画、横浜画廊企画（2005 年）、ギャラリー壹零参堂企画（2008 年）
- ・愛媛県立美術館収蔵「作品 1」100F
- ・綾瀬市 作品寄贈「必然に従って」100F
- ・聖路加国際病院 作品寄贈「可視的なものから」100F
- ・現在 国際現代美術家協会会長、神奈川県美術家協会会長、ソシエテ・ナショナル・デ・ボザール名誉会員（フランス）、日本美術家連盟会員、市内公民館で絵画グループを指導

『 岬 』

みやもり まさる

宮森 勝

【洋画】

略歴

- ・ 出身 北海道
- ・ 2007 年 示現会 入選
- ・ 2013 年 同会 佳作賞受賞
- ・ 2018 年 会員推挙
- ・ 2022 年 厚展 会員賞受賞
日展 入選
- ・ 現在 神奈川県海老名市在住
示現会会員、綾瀬市絵画会会員

< 作品解説 >

千葉県銚子市の犬吠埼を主題に制作いたしました。

荒波が犬が吠えるかのように音を発していました。

岬を手前には岩を配し、次に前景から岬への道を取り入れた。

『 焰 』

かとう きよの
加藤 聖乃

【日本画】

略歴

東北芸術工科大学卒

大学在学中は日本画を学ぶ。卒業後は編み物を始め、手芸を取り入れたアートを制作している。

< 作品解説 >

大学のあった山形のとある公園に引退した蒸気機関車がおかれていました。この絵はその内部を描いたものです。

現役時代は熱を持って走っていたんだなあ。と感じさせるエネルギーを放っていました。

男の子は絵と私たち鑑賞者の橋渡しのキャラクターです。“熱気”を感じてもらえたら嬉しいです。

『 水面に映る刻 』

つり や
釣谷 みよ子

【日本画】

略歴

- ・日本美術院同人 大矢紀氏に師事
- ・神奈川県美術展、ハマ展、大調和展 入選
- ・春の院展 入選7回
- ・秋の院展 入選5回
- ・個展（ギャラリーダダ）
- ・毎年「有名人慈善絵馬展」揮毫、乃木神社 揮毫
主催：稲毛神社、報徳二宮神社 後援：毎日新聞社東京社会業団
- ・現在 公益財団法人 日本美術院院友

< 作品解説 >

平和な時代が続いていくことを願いながら、二重橋の水面を描きました。

日が落ちた後の水面を眺めていると、心の奥から生きている喜びが湧いてきます。

『 蘇軾詩 』

う え だ ほ う す い
上 田 芳 翠

【書】

略歴

- ・現在 読売書法会幹事
謙慎書道会理事
芳泉書道会理事長
綾瀬市書道協会事務局
(株)カルチャー（港北カルチャー・厚木カルチャー）講師

< 作品解説 >

そしよく そとうば
蘇軾（蘇東坡）の詩、南堂五首其の五を書きました。

てんしよ しょうてん
書体は篆書てんしよの一種の小篆しょうてんです。

語訳

「室の中を掃き清め香を焚きこめ、閉めきって昼寝した。竹むしろは
さざなみのようでカーテンが煙のように淡い。客が来たとの知らせに
夢は覚めたが、どこにいたか我ながらわからない。西の窓を開いて見
れば大波は空の果てに続いている。」

『 山家集より 』

こんどう かずこ
近藤 和子

【書】

略歴

- ・正筆会（黒田賢一会長）参事 小林ミリ氏に師事
- ・平成 19 年 読売展 入選
以降 14 回入選
- ・平成 30 年 読売書法会 会友
- ・綾瀬書道協会 毎回出品
- ・グループ展
彩の書展 有楽町朝日ギャラリーにて 平成 15 年以降 2 年に 1 回開催 各回出品
- ・現在 綾瀬市書道協会役員、正筆会理事

< 作品解説 >

西行の歌三首

梅・月・夏草をテーマとして構成を行書きを主にし中心をやゝ下げることで、重さとポイントを強調し、後に続く行でさわやかさを表現してみました。

『 春句 吉語 』

さとう きんすい
佐藤 琴帥

【書】

略歴

- ・全日本現代女流書家 50 人展 出展
- ・神奈川県書家代表展 連続 出展

元全日本書道連盟会員、元毎日展会員、元日本刻字協会理事審査員、神奈川県書家クラブ
会員、横浜書人会会長審査員、書華会相談役審査員、墨泉社運営委員審査員、琴帥会主宰

< 作品解説 >

すいこうみどり めぐ きうちょう でん
水光 翠 は繞る 九 重の殿

か き こまやか くん ばんじゅ はい
華氣 濃 に薫ず 萬壽の杯

春水みどりに奥深き宮中の御殿をめぐって流れ咲く花の香気が濃や
かに香って萬寿を祝う杯に入る

『 東山魁夷の「青い峡（たに）」 』

ながい もくあん
長井 黙庵

【書】

略歴

- ・ 故 高嶺黙齋氏へ師事
- ・ 令和3年 書燈社展 大作特選 神奈川新聞社賞 受賞
- ・ 令和4年 書燈社展 大作準特選 受賞
- ・ 令和5年 書燈社展 大作準特選 受賞
- ・ 令和6年 書燈社展 大作準特選 受賞

< 作品解説 >

周山街道は京都市右京区を通り、福井県小浜市へ続く山間の街道で、若狭から京都へ魚介類を運ぶための鯖街道の一つとして知られている。

作者は、京都の街中の暑をのがれ、山あいの周山街道までくると、めっきり涼しくなり、峡谷から木々の青が交響曲を奏でるように聞こえてくるようだ。

『 俳句 』

ば ば こうえん
馬場 虹苑

【書】

略歴

- ・1995 年 毎日書道展 毎日賞受賞
- ・1998 年 毎日書道展 秀作賞受賞
- ・2001 年 毎日展会員になる
- ・2003 年 神奈川県美術展 特選受賞
- ・2008 年 現代日本の書代表作家台北展出品
- ・2010 年 一般社団法人 書燈社参与
- ・2017 年 神奈川県美術展 招待作家

< 作品解説 >

近代詩文書について

近代詩文の書で 日頃は中国の古典の書あるいは日本の空海、最澄の
等を常に臨書を重ね 線質を勉強し詩状を表現することを目的とします。

『 老子語 』

はまおか けんうん
濱岡 見雲

【書】

略歴

- ・中国書法会と交流 書会多数
- ・雄翔書芸院主宰（個展3回、社中展14回（隔年）、選抜展1回）
綾瀬市：上土棚教室
横浜市：金沢八景教室
- ・現在 日展作家、日本の書展招待作家、読売書法会参与、
謙慎書道会常任理事審査員、全日本書道連盟正会員、神奈川県代表書家展作家、
神奈川県展招待作家、（公社）大日本書芸院外部審査員、竹青社顧問、
綾瀬市書道協会顧問、神奈川書家クラブ会員

< 作品解説 >

久し振りの大字に挑戦。雅味のある線質で表現したつもり。

禍莫大於不知足（老子）

読 禍^{わざわい} は足^たるを知ら^しざるより大^{おお}なるはなし

意 人は足ることを肝要とする。

足ることを知らぬのが禍のもとである。

『 上野の森 』

ひ る かわ しゅうすい
比留川 秀水

【書】

略歴

毎日書道展

書燈社展

大作（たて 240cm×よこ 180cm） 特選 三回

大作（たて 240cm×よこ 180cm） 準特選 二回

神奈川県美術展 準大賞 一回

< 作品解説 >

東京都心にある上野の森は木々が多く、春は新緑、秋は黄葉に心が癒されます。

上野の森は行き交う人を楽しませてくれると思います。

特にそびえ立つイチョウは黄金に輝き、目を見張ります。

この上野の森を書いてみましたがイメージ通りには書けませんでした。山のような反故を重ねた中の一枚です。

『 飄逸 』

みずかわ ほうちく
水川 芳竹

【書】

略歴

- ・ 日展入選
- ・ 月刊誌「芳林書道」編集

現在 毎日書道展審査会員、一瀾書道会副理事長、神奈川県書家クラブ会員、
芳林書道院会長

< 作品解説 >

飄逸とは俗事にこだわらず、気ままにふるまうこと。

芸術に関わる時だけは何も気にせず、純粹な気持ちで過ごしたい。

そんな強い意志を表現したくて力強さも加味した。

『 道薙 』

いしはら しんぞう
石原 新三

【工芸】

略歴

- ・愛知県出身
- ・壁画家 作家旦平氏の師事のもとモザイク壁画 透光モザイク壁画に参加、東京のモザイク工房に参加
- ・個人作でモザイク壁画、モザイク絵画、透光モザイク制作
- ・個展、グループ展、団体展
- ・HP「いしはらモザイクアトリエ」

< 作品解説 >

この作品はガラス製のモザイクで、イタリア・ヴェネチアの会社のズマルトを使っております。

色数は数百色ありますが、私は150色程持ってます。

ズマルトモザイクは光沢を持っており、この艶に魅了して制作してきました。

「道薙」の薙は草を刈る意味ですが、広がる空間と奥に至る空間を表現したいと思った作品の1点です。

まさにじゅうするところなくして
『 応 無 所 住 』

きつかわ かずお
橘川 和男

【工芸】

略歴

- ・1947年 11月 25日 綾瀬市に生まれる
- ・1971年 5月 鎌倉彫博古堂 故後藤俊太郎氏に師事
- ・1985年 4月 和紅堂設立（独立）
- ・1994年 3月 優秀鎌倉彫技能者認定
- ・2014年 10月 神奈川県美術展 入選
- ・2016年 9月 神奈川県美術展 入選
- ・2018年 6月 神奈川県美術展 入選
- ・2019年 9月 神奈川県美術展 入選「神奈川賞受賞」
- ・2021年 9月 神奈川県美術展 入選
- ・鎌倉彫作品展 創作大賞、神奈川県知事賞、鎌倉市長賞受賞
- ・現在 故、柳 宗悦先生の工芸の道との邂逅

< 作品解説 >

今回の題名を「応無所住」にしたのは、故 柳 宗悦先生の著「工芸美論」との邂逅です。

「下手物」であることは、工芸の問題だけでなく、美の問題だけでなく、生活や経済、社会にまでおよぶことであり、道徳や宗教にも関連してくることであると。

そして自然や人間の秘義を解く鍵であると。

「応無所住而生其心」とは、何の執心もない作り方からその美しさがおのずと生まれる、という意味ですが、これが禅では「只麼^{しも}」に作られた品であると。

それは美しさを狙っての品ではなく、ごく当たり前に素直に作られたものであると。

まさに無求の求であると。

『 藍釉掛分銀彩花器 』

こんどう けい
近藤 圭

【工芸】

略歴

- ・1977 年 神奈川県生まれ
- ・1997 年 石川県立九谷焼技術研修所卒業
- ・1997 年 山近剛氏に師事
- ・2000 年 朝日現代クラフト展 入選
- ・2011 年 創造展 会員賞（2013 年まで 3 年連続受賞）
- ・2019 年 創造展 内閣総理大臣賞
- ・2019 年 綾瀬市一般表彰

< 作品解説 >

藍色と茶色の釉薬で焼き上げた後に銀彩を施して再度焼成した作品。

『 行雨 』

つじ しのぶ
辻 忍

【彫刻】

略歴（近年）

・個展

2022 年 地にそよぐ （アトリエKアートスペース・神奈川）

2025 年 ふたたび （アトリエKアートスペース）

・グループ展

1994 年 第 30 回神奈川県美術展（県民ホールギャラリー） 大賞

1998 年 第 26 回現代日本美術展（東京都美術館） 佳作賞

2018 年 第 82 回自由美術展 平和賞（国立新美術館・六本木）

2021 年 石原智是・辻忍展（K's ギャラリー・東京）'23 '25

2025 年 International 2025 ART and CRAFT Exhibition（横浜赤レンガ倉庫 1 号館）

< 作品解説 >

ここ二十数年程、一木の古木を彫り進める仕事をしてきた。

作品は細くなる一方で、制作中も壁に立て掛けることすらできなくな
ってしまい、展示では空中に吊るす方法を取らざるをえなかった。

僅かな力ですぐに折れ崩れてしまう…。ただ今年 2 月頃から、掘る
ことで逆にボリュームを作ることができるようになった。

この作品は 7～8 年ぶりに安心して自立できるものとなる。

これから作品はどこに向かっていくのだろう…。